

日本語教育機関の自己点検と評価

評価期間 2023年10月1日～2024年3月31日

2024年4月

(株) ウィン
ウィン日本語学院

ウィン日本語学院 自己点検及び評価

評価期間 2023年10月1日～2024年3月31日【評価日2024年3月】

評価判定

- A : 達成されている
- B : ほぼ達成されているが、不十分なところがあり改善に取り組んでいる
- C : 達成に向けて努力している。
- D : 達成されていない／必要性に気づいていない
- X : 該当しない

<チェック項目>

1 教育の理念・目標

- [A] 教育理念、目的、目標、育成する人物像が明確になっているか。
- [A] 教育理念、目的、目標、育成する人物像が社会のニーズに合致しているか。
- [B] これらの理念、目標を体現した学生を現実に輩出できているか。
- [A] 教育理念が教職員のみならず、学生にも共有されているか。

本校の教育理念や目標は機会を捉えて学生たちを指導するように心がけている。開校二年終了、卒業生全員の進路先が確定した。機会をとらえて車関連への導きを増やすことを考えていきたい。

2 組織

2-1 組織体制

- [A] 設置者、設置代表者及び経営担当役員は、「日本語教育機関の告示基準」で定められた要件に適合しているか。
- [A] 事業規模に応じた組織体制になっているか。
- [B] 受け入れようとする学生の言語に対応できる組織となっているか。

日本語教育機関告示校の基準の適合した組織体制となっている。

2-2 教員組織

- [A] 校長、主任教員、及び教員は、「日本語教育機関の告示基準」で定められた要件を備えているか。
- [A] 校長、主任教員、専任教員及び非常勤教員の職務内容及び責任と権限を明確に定めているか。
- [A] 教育目標達成に必要な教員の知識、能力及び資質を明示しているか。

採用時に能力や資質を確認するとともに今後の研修において知識を深めていく。国の最新の情報を共有するように心がけている。

2-3 事務職員

- [A] 生活指導責任者及び在留事務担当者を特定し、その職務内容及び責任と権限を明確に定めているか。
- [A] 担当者が複数名の場合は、責任者を特定し、それぞれの責任と権限を明確化しているか。
- [A] 生活指導責任者及び在留事務担当者を学生及び教職員に周知しているか。
- [A] 出入国在留管理局より認められた申請等取次者を配置しているか。

2-4 採用と育成

- [A] 教員及び職員の採用方法及び雇用条件を明文化しているか。
- [A] 教員及び職員の研修等により教育の質及び支援力強化のための取組をしているか。
- [A] 教育機関としての信頼を高めるため、倫理観、振舞い、ハラスメント防止等に関する研修を行っているか。
- [A] 教員及び職員の評価を適切に行っているか。

本社のコンプライアンス大会への参加や関連情報の収集・共有化を図っている。
教職員評価については、本社独自の評価や「自己点検と評価」で対応している。

3 財務

3-1 財務状況

- [A] 財務状況は、中長期的に安定しているか。
- [A] 予算・収支計画の有効性及び妥当性が保たれているか。
- [A] 適正な会計監査を実施しているか。

4 教育環境

4-1 校地、校舎

- [A] 教育機関として適切な位置環境にあるか。
- [A] 安定的に教育活動を継続するための校地及び校舎を整備しているか。
- [A] 校舎面積は、「日本語教育機関の告示基準」に適合しているか。

本校の教育環境は良好で、告示基準に適合している。

4-2 施設、設備

- [A] 教室、その他の施設は、「日本語教育機関の告示基準」に適合しているか。
- [A] 教室内は、十分な照度があり、適度に換気しているか。
- [A] すべての教室は、語学教育を行うのに必要な遮音性を確保しているか。
- [A] 授業時間外に自習できる部屋を確保しているか。
- [A] 教育内容及び学生数に応じた図書やメディアが整備され、常時利用可能であるか。
- [A] 視聴覚教材や IT を利用した授業が可能な設備や教育機器を整備しているか。
- [A] 教員及び職員の執務に必要なスペースを確保しているか。
- [A] 同時に授業を受ける学生数に応じたトイレを設置しているか。
- [A] 法令上必要な設備等を備えているか。
- [A] 廊下、階段等は、緊急時に危険のない形状であるか。
- [B] バリアフリー対策を施しているか。

図書やメディアは必要性の高いものをそろえていきたい。

5 安全・危機管理

5-1 健康・衛生

- [A] 健康、衛生面について指導する体制を整えているか。
- [A] 対象となる学生全員が国民健康保険に加入し、併せて、留学生保険にも加入しているか。
- [A] 重篤な疾病や傷害のあった場合の対応を定めているか。
- [A] 感染症発生時の措置を定めているか。

5-2 危機管理

- [A] 危機管理体制を整備しているか。
- [A] 火災、地震、台風等の災害発生時の避難方法、避難経路、避難場所等を定めているか。
- [A] 気象警報が発令された場合の措置を定めているか。
- [A] 災害等に対する避難訓練を定期的実施しているか。
- [B] 防災用品を適切に備蓄しているか。

留学生数と教職員数に合わせた非常食・飲み水等の購入が適宜必要である。

6 法令の遵守等

- [A] 法令遵守に関する担当者を特定しているか。
- [A] 教職員のコンプライアンス意識を高めるための取組を行っているか。
- [A] 個人情報保護のための対策をとっているか。
- [A] 入国管理局、関係官庁等への届け出、報告を遅滞なく行っているか。

教職員のコンプライアンス意識は、よく高められている。

7 運営全般

7-1 組織的な運営

- [A] 短期及び中長期の運営方針と経営目標を明確化し、教職員に周知しているか。
- [A] 管理運営の諸規定を整備し、規定に基づいた運営をしているか。
- [A] 意思決定が組織的になされ、かつ、効率的に機能しているか。
- [A] 予算編成が適切になされ、執行ルールが明確であるか。
- [A] 業務の見直し及び効率的な運用の検討を定期的、かつ、組織的に行っているか。

入学希望者数が適切に確保されるように現地代理店との情報交換を進めている。

7-2 納付金

- [A] 入学検定料、入学金、授業料及びその他納付金の金額及び納付期限を明示しているか。
- [A] 学費以外に入学後必要となる費用を明示しているか。
- [A] 関係諸法令に基づいた学費の返還規定を定め、公開しているか。

7-3 情報の共有化及び発信

- [B] 外部からの情報提供を効率的に受け入れ、かつ、共有化する仕組みがあるか。
- [A] 内部からの情報発信を効率的に行っているか。
- [A] 入学希望者・学習者及び利害関係者（経費支弁者等）の理解できる言語で情報提供を行っているか。

効率的な伝達手段を用いて情報の収集・共有・発信を行っている。入学希望者等への言語対応は、現地代理店と連携を図っている。

8 学生募集

8-1 募集方針

- [A] 教育理念・目標に沿った学生の受入方針を定め、年間募集計画を策定しているか。
- [A] 募集定員を定めているか。
- [A] 機関に所属する職員が入学志願者に対して情報提供や入学相談を行っているか。

募集要項や案内を効果的に活用し、現地仲介代理店の対応を確実にし、志望動機や一定以上の日本語能力が本学院の理念に適した者を募集するようにしている。

8-2 募集活動

- [A] 教育内容、教育効果を含む最新、かつ、正確な学校情報が入学希望者の理解できる言語で開示しているか。
- [A] 求める学生像を明示しているか。
- [A] 応募資格及び条件を入学希望者の理解できる言語で明示しているか。
- [A] 募集活動を行う国・地域の法令を遵守した募集活動を行っているか。
- [A] 海外の募集代理人（エージェント等）に最新、かつ、正確な情報提供を行っているか。
- [A] 海外の募集代理人（エージェント等）の行う募集活動が適切に行われていることを把握しているか。

8-3 入学選考

- [A] 入学選考基準及び方法を明確化しているか。
- [A] 学生情報を正確に把握し、及び提出書類により確認を行っているか。
- [A] 入学選考を行う体制を整備しているか。
- [A] 受け入れるコースの教育内容が志願者の学習ニーズと合致することを確認しているか。

9 教育活動

9-1 企画

- [A] 教育理念・目標に合致したコースを設定しているか。
- [A] 到達すべき日本語能力を明示しているか。
- [A] 教育目標達成に向けた教育内容、教育方法、および進度設計を定めているか。
- [A] レベル設定に当たっては、国内又は国際的に認知されている習熟度の枠組みを参考にしているか。

- [A] 教育内容及び教育方法について教員間で共通理解が得られているか。
- [A] カリキュラムを体系的に編成しているか。
- [A] 教育目標に合致した教材を選定しているか。
- [A] 補助教材、生教材を使用する場合は出典を明らかにするとともに、著作権法に留意しているか。
- [A] 授業に関する学習リソース及び情報を授業開始までに教員に提供しているか。
- [A] 教員配置を適切に行っているか。
- [A] 授業開始までに学生の能力を試験等により判定し、適切なクラス編成を行っているか。
- [A] 教員に対して、担当するクラスの学生の学習目的、編成試験の結果、学習歴その他指導に必要な情報を伝達しているか。
- [A] 開示されたシラバスによって授業を行っているか。
- [A] 修了の要件を定め、学生の理解できる言語によって明示しているか。
- [A] 教育内容によって教育機器を活用しているか。
- [A] 授業記録及び出席簿を備え、正確に記録しているか。
- [A] 理解度・到達度の確認を実施期間中に適切に行っているか。
- [B] 学生の自己評価を把握しているか。
- [A] 授業や運営に関する学生からの相談、苦情等の担当者を特定し、適切に対処しているか。
- [A] 学習内容、時間割と学年暦、成績判定の基準と方法、学習上の留意点、留学生活上の留意点、入管法上の留意点とこれらについての相談担当者名を記載した文書を、入学時に学生に配付しているか。

学生の自己評価は、個別面接を定期的に行うことで対応している。2年生時には簡易な自己評価をさせたい。

9-2 成績判定

- [A] 判定基準及び判定方法を明確に定め、開示しているか。
- [A] 成績判定結果を的確に学生に伝えているか。
- [A] 判定基準及び判定方法の妥当性を定期的に見直ししているか。

成績・進級判定は、本校の設定基準に従って行っている。

9-3 授業評価

- [B] 授業評価を定期的に行っているか。
- [B] 評価体制、評価方法及び評価基準が適切であるか。
- [B] 学生による授業評価を定期的に行っているか。
- [B] 評価結果を教育内容や方法の改善、教員の教育能力向上等の取組に反映しているか。

学生による授業評価は聞き取りを主体に行っている。

10 学生支援

10-1 支援体制

- [A] 学生支援計画を策定し、支援体制を整備しているか。
- [A] 休日及び長期休暇中の学生対応ができているか。

教職員が定期的に寮に出向き、生活実態を把握するとともに学生たちの声に耳を傾け、学生支援をするように心がけている。

10-2 日本社会を理解し、適応するための支援

- [A] 入学直後のオリエンテーションを実施しているか。
- [A] 生活に関するオリエンテーションを実施しているか。
- [B] 地域交流や地域活動を実施しているか。

可能な範囲で地域交流や文化活動（年中行事の紹介や地域の祭りや踊り等への参観、七夕飾りや浴衣試着など）に参加・活動している。

10-3 生活面における支援

- [A] 住居支援を行っているか。
- [A] アルバイトに関する指導及び支援を行っているか。
- [A] 交通事故等の相談体制を整備しているか。
- [A] 定期的に健康診断を実施しているか。
- [A] 学生全体の生活状況について定期的に調査しているか。

10-4 進路に関する支援

- [A] 進路指導担当者を特定しているか。
- [A] 学生の希望する進路を把握しているか。
- [A] 進学、就職等の進路に関する最新の資料を備え、学生が閲覧できる状態にあるか。
- [A] 入学時からの一貫した進路指導を行っているか。

本校は自動車整備士になろうとする留学生の育成を第一の目標としている。卒業後の進路選択に応じて自動車関連の図書や資料を充実させたり、自動車専門学校や大学、自動車関連施設等の見学も計画・実施したりしている。また、他の職種を希望する学生に対しても進路情報提供している。

10-5 入国・在留に関する指導及び支援

- [A] 担当者は、研修受講等により適切な情報取得を継続的に行っているか。
- [A] 入管法上の留意点について学生への伝達、指導等を定期的に行っているか。
- [A] 在留に関する学生の最新情報を正確に把握しているか。
- [X] 在留上、問題のある学生への個別指導を行っているか。
- [A] 不法残留者、資格外活動違反者、犯罪関与者等を発生させないための取組を継続的に行っているか。
- [A] 過去3年間、不法残留者、資格外活動違反者及び犯罪関与者を発生させていないか。

在留上、個別指導を必要とする事案は発生していない。学生の在籍管理が適正になされるように最新情報の把握や共有化も図っている。

11 教育効果

11-1 成果の判定

- [A] 進級及び卒業判定を適切に行っているか。
- [A] 日本留学試験、日本語能力試験等の外部試験の結果を把握しているか。

進級・卒業判定基準は設定している。2年目の学生全員が、日本語能力検定試験 JLPT を受けている。

11-2 卒業生の状況の把握

- [A] 卒業生の状況を把握するための取組を行っているか。
- [A] 卒業後の進路を把握しているか。
- [X] 進学先、就職先等での状況や卒業生の社会的評価を把握しているか。

卒業間がないので社会的評価を得ていない。

12 地域貢献・社会貢献

- [C] 学校という施設や知的財産を地域住民の方々の利用に供することができるか。
- [B] 近隣のごみ拾い等のボランティア活動への参加等、地域貢献ができているか。
- [B] 地域の文化施設や自然、伝統行事等を学生指導に取り込み、教育資源として活用できているか。
- [C] 地域住民との交流を常に行い、地域住民からの意見や要望等を把握できているか、またその意見や要望に応えられたかどうかを、公表する仕組みがあるか。

周辺道路のゴミ拾いや除草など地域貢献活動を実施している。実施例が少ないので今後の取組みを考慮したい。